

## 調査レポート

### 沖縄県内における 2025 年プロ野球春季キャンプの経済効果 ～ 経済効果は過去最高の 224 億 2,100 万円～

#### (要 旨)

- ・ 2025 年の沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果は、過去最高の 224 億 2,100 万円となり、前年の 177 億 9,300 万円を大きく上回った。
- ・ 延べ観客数は約 43 万 9,000 人となり、前年 (45 万 7,000 人) から 3.9%減となったものの、旺盛な観光需要等を背景に県外からの観客数は増加し、過去最高の約 12 万人と推測され、各キャンプ地は連日多くの観客やファンで賑わいをみせた。
- ・ プロ野球春季キャンプは、観光のオフシーズンに多くの観客や関係者が来沖し消費活動を行うことから「観光消費額の平準化」に寄与し、県経済に与えるインパクトは大きい。
- ・ 経済効果の最大化を目指すにあたり、観光消費額の大きい県外客を中心に誘客および消費行動を促すことが重要である。地元飲食店や土産品店の出店や地域への周遊の促進などは、キャンプ地の賑わい創出及び来場者の消費行動を促し、経済効果に大きく影響する。
- ・ また、球団の継続的な受け入れにあたり、老朽化が進む球場施設の強化が欠かせない。さらに、スポーツツーリズムのみならず沖縄観光全体の課題として、交通問題への対策も求められる。
- ・ プロ野球春季キャンプにおける誘客は、沖縄観光の新たな客層の獲得及びリピーター創出につながる。温暖な気候を活かした「スポーツアイランド沖縄」の形成は沖縄観光発展の重要な位置を占めており、プロ野球春季キャンプはスポーツツーリズム推進の一翼を担う存在として、継続・進化していくことが期待される。そのためには県や自治体、地元事業者、そして地域住民が一体となって持続可能な受け入れ態勢を構築していくことが不可欠である。
- ・ 今後もキャンプ集積地としての付加価値向上を図り、沖縄のスポーツ産業を牽引する観光コンテンツとしてさらに発展していくことが望まれる。

(目次)

1. 2025年のプロ野球春季キャンプの概要	
(1) キャンプ実施球団の状況.....	1
(2) キャンプ参加者・観客の人数.....	2
2. 経済効果の試算について	
(1) 春季キャンプの関連支出額（直接支出額）.....	3
(2) 春季キャンプの沖縄県内における経済効果.....	3
(3) 産業別の経済効果.....	4
3. プロ野球春季キャンプ経済効果の拡大に向けた課題と展望	
(1) 設備強化.....	5
(2) 消費行動の促進.....	6
(3) 交通問題の解消.....	7

## 1. 2025 年の春季キャンプの概要

### (1) キャンプ実施球団の状況

2025 年 2 月に沖縄県内で春季キャンプを実施した国内プロ野球球団は、12 球団中 9 球団となった。1 軍キャンプは前年同様に 9 球団となったが、2 軍キャンプはロッテ 2 軍の宮崎県へのキャンプ地変更により前年から 1 球団減の 4 球団となった。開催球場は前年同様 14 球場となった（図表 1）。キャンプ期間は前年と同程度であった。

延べ観客数は全体として過去最高となった前年を下回ったものの、そのうち県外からの観客数は旺盛な観光需要等を背景に増加し、過去最高を記録した。各会場は連日多くのファンで賑わいを見せた。

その他、日本シリーズで 26 年ぶりの日本一に輝いた DeNA や、井上一樹新監督を迎えた中日、藤川球児新監督を迎えた阪神のキャンプ実施が注目を集めた。選手では、楽天のドラフト 1 位ルーキーの宗山塁選手のキャンプ初参加や、昨季の故障からの復活が期待される中日の仲地礼亜選手、今季 1 軍スタートとなった広島の中田侑仁選手といった県出身選手のキャンプインなどが話題を呼んだ。

(図表 1) 沖縄県内における 2025 年春季キャンプの実施状況

球団名 (略称)	キャンプ地	開催球場	キャンプ期間	
			2月	日程
北海道日本ハムファイターズ (日本ハム)	名護市	Enagicスタジアム名護	→	2/1 ~ 2/26
	(二軍) 国頭村	かいぎんスタジアム国頭	→	2/1 ~ 2/25
広島東洋カープ (広島)	沖縄市	コザしんきんスタジアム	→	2/13 ~ 2/26
中日ドラゴンズ (中日)	北谷町	Agreスタジアム北谷	→	2/1 ~ 2/25
	(二軍) 読谷村	オキハム読谷平和の森球場	→	2/1 ~ 2/25
横浜DeNAベイスターズ (DeNA)	宜野湾市	ユニオンですからスタジアム宜野湾	→	2/1 ~ 2/24
東京ヤクルトスワローズ (ヤクルト)	浦添市	ANA BALL PARK 浦添	→	2/1 ~ 2/26
阪神タイガース (阪神)	宜野座村	バイトするならエントリー宜野座スタジアム	→	2/1 ~ 2/28
	(二軍) うるま市	うるま市具志川野球場	→	2/1 ~ 2/25
東北楽天ゴールデンイーグルス (楽天)	金武町	金武町ベースボールスタジアム	→	2/1 ~ 2/24
	(二軍) 久米島町	久米島野球場	→	2/1 ~ 2/13
千葉ロッテマリーンズ (ロッテ)	石垣市/ 糸満市	石垣市中央運動公園野球場/糸満市西崎総合運動公園	→	2/1 ~ 2/24
	(二軍)	※2025年は宮崎県へキャンプ地を変更		
読売ジャイアンツ (巨人)	那覇市	沖縄セルラースタジアム那覇	→	2/15 ~ 2/25

※球団は沖縄県でのキャンプを始めた年の順で掲載

(出所) 球団 HP およびスポーツ紙報道よりりゅうぎん総合研究所作成

## (2) キャンプ参加者・観客の人数

### ① 選手・球団関係者・報道陣

キャンプ参加人数は、選手（1～2軍計）・球団関係者は全9球団合計で約1,110人（前年比70人減）となり、報道関係者や解説者は約1,500人（前年比300人減）となった。前年と比較して、キャンプの日数や練習試合の数が減少したことなどが影響したと推測される。

### ② 観客数

キャンプ期間中の延べ観客数は、約43万9,000人（オープン戦含む）となった。前年と比較して、キャンプ日数や練習試合の減少に加え、キャンプ期間中に降雨日が多かったことや、ロッテ2軍の宮崎県へのキャンプ地変更などの影響もあり、前年（約45万7,000人）から1万8,000人の減少となった。

各キャンプ地では、練習見学や試合観戦のほか、サイン会などのファンとの交流イベントなどが催され連日賑わいを見せた（写真1）。26年ぶりの日本一となったDeNAは、キャンプ初日に宜野湾市内でパレードを開催し、多くの観客が詰めかけ大盛況を収めた。

延べ観客数のうち、県外からの観客数は約12万人と推測され、前年（約9万8,000人）を上回り過去最高となった。旺盛な観光需要を背景に入域観光客数が増加したことが主な要因と考えられる。また、沖縄県によるプロ野球キャンプ地の周遊を促すスタンプラリー企画（写真2）や、協力会によるSNS（Instagramなど）を活用したキャンプ地の情報発信など、誘客促進に資する取組みも県外客の増加を後押ししたとみられる。

（写真1）県内キャンプ地の様子



（写真2）沖縄県のスタンプラリー企画



（出所）写真1 上および写真2は阪神宜野座キャンプ、写真1 下は巨人那覇キャンプにて筆者撮影（2025年2月）

## 2. 経済効果の試算について

### (1) 春季キャンプの関連支出額（直接支出額）

キャンプでは、球団関係者のほかに県外からの観客が県内で宿泊、飲食、娯楽レジャー、土産品・グッズ購入などに支出するほか、多くの県民がキャンプ地へ出かけて飲食や土産品・グッズを購入する。また、キャンプ受け入れ地の自治体による練習施設等のインフラ整備や、協力会によるキャンプ応援のための関連経費の支出などがあり、これらを合計したものが直接支出額となる。

この直接支出額を推計すると、総額で161億700万円となり、前年（129億1,900万円）を31億8,800万円上回った（図表2）。

試算結果の内訳をみると、宿泊費が48億7,100万円で最も多く、次いで飲食費が31億800万円、土産品・グッズ購入が24億6,200万円などとなった。県外からの観客数が増加したことに伴い宿泊費や飲食費が上昇したことなどから、多くの項目で増加となった。中でも練習施設等の整備費は、糸満市での屋内運動場の建設やうるま市でのサブグラウンドの全面改修などにより大幅に増加した。

（図表2）2025年プロ野球春季キャンプ関連支出額（直接支出額）

支出項目	支出額 (百万円)	前年差 (百万円)
宿泊費	4,871	324
飲食費	3,108	539
土産品・グッズ購入	2,462	571
交通費	1,420	12
娯楽・レジャー費	1,151	39
練習施設等の整備費	2,180	1,771
アルバイトへの支払い	73	▲39
クリーニング代	81	▲5
施設等使用料	62	▲7
その他	700	▲16
合計	16,107	3,188

（出所）りゅうぎん総合研究所

### (2) 春季キャンプの沖縄県内における経済効果

まず、県内の産業全体の自給率は100%ではないため、(1)で求めた直接支出額161億700万円に自給率を掛けると県内で供給された分である139億9,400万円が求められ、これが直接効果となる（図表3）。

次に、直接効果である宿泊費、飲食費、交通費、施設整備費などが県内で支出されると、当該産業だけでなく、こうした産業に原材料、サービスなどを提供している産業の売上増加へと波及していく。これを1次間接効果といい、これが56億4,400万円となる。さらに、直接効果と1次間接効果で生じた各産業における雇用者の所得増加は、これら雇用者の消費支出を増加させ、関連する各産業の生産を誘発していく。これを2次間接効果といい、これが27億8,400万円となる。

これらの直接効果、1次間接効果、2次間接効果を合わせた金額が224億2,100万円となり、これがいわゆる県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果となる。

また、これらの効果のうち、賃金などの雇用者所得や企業の営業余剰などに当たる粗付加価値額が117億6,700万円となり、この中で雇用者所得が53億2,200万円となる。今年の経済効果である224億2,100万円は、前年(177億9,300万円)を46億2,800万円上回った。

(図表3) 2025年プロ野球春季キャンプ経済効果の試算結果

	【単位:百万円】			
	経済効果 (生産誘発額)	粗付加価値 誘発額	雇用者所得 誘発額	
			雇用者所得 誘発額	営業余剰 誘発額
直接効果	13,994	6,856	3,193	1,621
1次間接効果	5,644	3,136	1,401	804
2次間接効果	2,784	1,775	727	534
総合効果 (経済効果)	22,421	11,767	5,322	2,959
直接支出額	16,107	-		
波及効果	1.4 (倍) …(総合効果/直接支出額)			

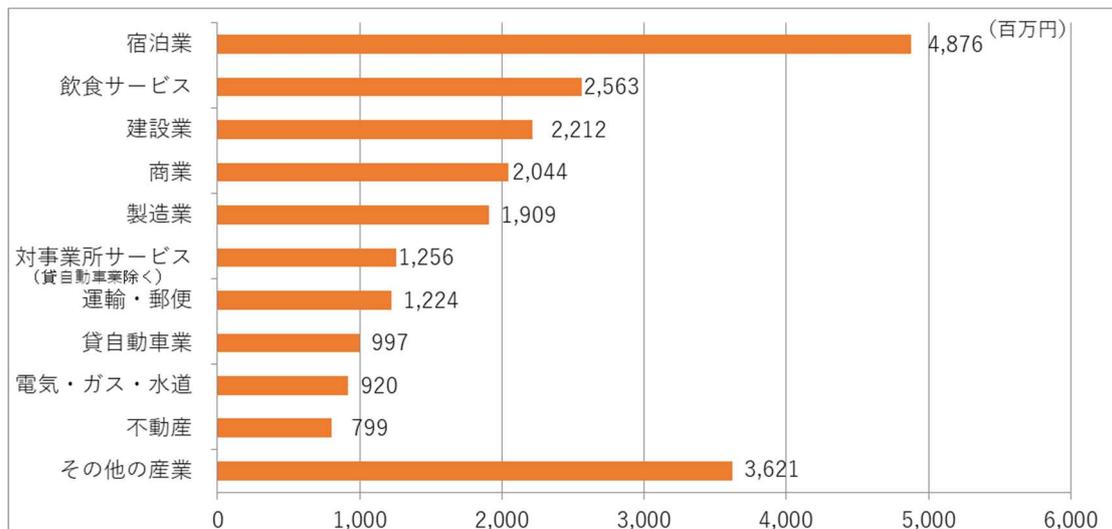
- (注) 1.直接効果は直接の支出による効果(自給率が100%でなければ移輸入の分、直接支出額を下回る)。  
 2.1次間接効果は、原材料を他の産業から購入することによって起こる波及効果。  
 3.2次間接効果は、直接効果、1次間接効果によって生み出された雇用者所得の増加が個人消費の拡大を通して再び生産を誘発する効果。  
 4.生産誘発額は、直接支出の増加により誘発された各部門の生産額の合計。  
 5.付加価値は、誘発された生産額の中に占める粗付加価値(雇用者所得や営業余剰など)。  
 6.端数処理により合計は合わないことがある。

(出所) りゅうぎん総合研究所

### (3) 産業別の経済効果

今年の経済効果である224億2,100万円を産業別にみると、宿泊業が48億7,600万円と最も大きく、次いで飲食サービス(飲食店など)が25億6,300万円、建設業が22億1,200万円、商業が20億4,400万円、製造業が19億900万円、対事業所サービス(貸自動車業除く)が12億5,600万円などの順となった(図表4)。

(図表4) 2025年プロ野球春季キャンプにおける産業別経済効果

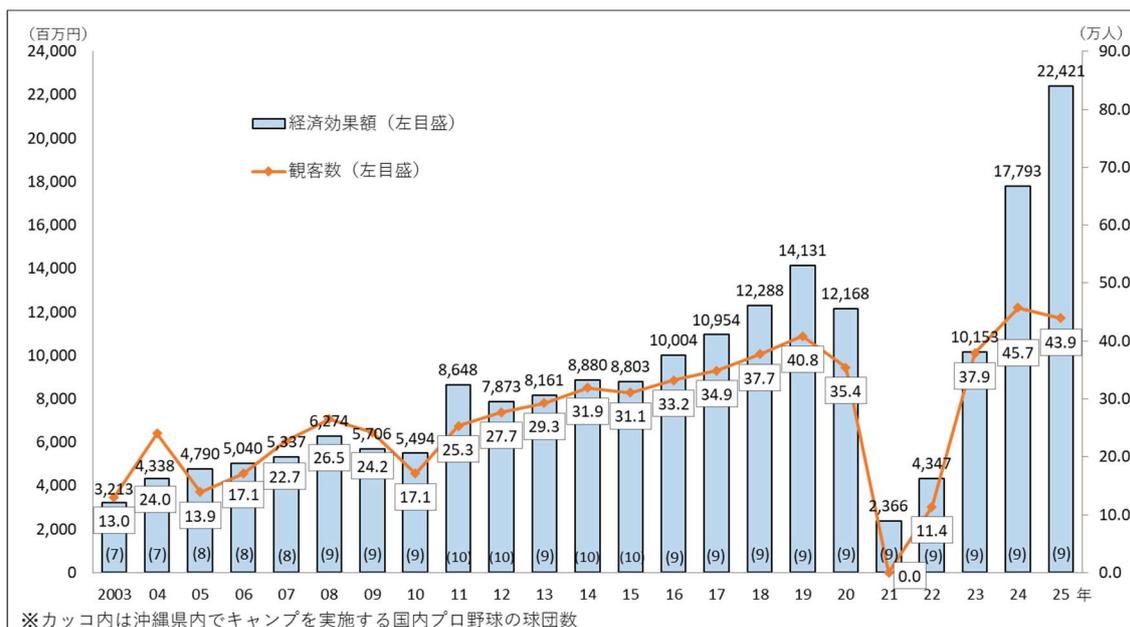


(出所) りゅうぎん総合研究所

### 3. プロ野球春季キャンプ経済効果の拡大に向けた課題と展望

2025年の県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果は、前年比26.0%増加し、過去最高となった(図表5)。キャンプ実施球団数は前年と同数の9球団となったが、県外からの観客数が増加したことで全体の消費額も大きくなったことや、施設整備費の増加が経済効果の拡大に寄与した。

(図表5) プロ野球春季キャンプの経済効果と観客数の推移



※カッコ内は沖縄県内でキャンプを実施する国内プロ野球の球団数

(出所) りゅうぎん総合研究所

プロ野球春季キャンプは、観光閑散期である2月に多くの観客や関係者が来沖し消費活動を行うことから、県経済に与えるインパクトは大きい。ここでさらなる経済効果の拡大を目指すにあたり、(1) 設備強化、(2) 消費行動の促進、(3) 交通問題の解消の3つの視点から、現状の課題を整理したい。

### (1) 設備強化

県内キャンプの継続実施に向け、これまで各自治体や協力会においては、球団側の要望に対し柔軟かつスピード感を持って対応してきた。特にハード面においては、近年加速する施設整備の状況からもわかるように、球場の建て替えや改修、雨天時でも練習可能な屋内練習場やブルペンの併設など、よりレベルの高い練習環境の実現に努めており、こうした努力が球団側との信頼関係の構築に寄与している。

一方で、老朽化が進む施設も多く、修繕や機能強化など更なるレベル向上を望む球団も多い。例えば、過去22年間宮古島でキャンプを実施してきたオリックスは、設備の老朽化などを背景に2015年からキャンプ地を宮崎市に移している。こうした状況からもキャンプ地として継続して選ばれるためには、設備の充実が大前提であることがうかがえる。

また、設備強化は経済効果の拡大にもつながる。施設機能の拡充により観客数の増加などが見込まれるからである。更に、その他のスポーツイベントなど年間を通じた誘致が可能となれば、新たな経済効果へつながることも期待される。

今後も安定したキャンプ実施に向け、引き続き球団側と密にコミュニケーションをとりながら、要望に出来る限り対応していくことが望まれる。

### (2) 消費行動の促進

プロ野球春季キャンプ実施による経済効果の最大化を目指すにあたり、キャンプ地に訪れた観客の消費行動を促すことが重要である。各キャンプ地では球団のグッズ販売店が構えられ、ファンはキャンプ限定のTシャツやタオルを身に着けイベントムードを盛り上げていた。加えて地元飲食店の出店や動線を意識した会場づくりなど、キャンプ地の賑わい創出及び観客の消費を促進する仕掛けづくりに取り組む必要がある。

例えば、宮崎市にてキャンプを実施したソフトバンクの会場では、20以上の店舗が立ち並び地元のグルメやお土産購入を楽しめるようになっている(写真3)。また、バレンタイン限定メニューの販売や一定金額以上購入すると参加できる抽選会を設けるなど、観客の購買意欲を掻き立てる様々な工夫が凝らされている。

県内においても、キャンプ地では複数のキッチンカーが並び、飲食を楽しめるようになっているほか、消費行動を促進する様々な取組みが行われている。例えば、複数のキャンプ地では地元商店の周遊を促すスタンプラリーを導入している。また、沖縄県が発行する「プロ野球沖縄キャンプ攻略ガイドブック(以下、攻略ガイドブック)」には各キャンプ地周辺の飲食店や観光施設が紹介されるなど、キャンプ以外の沖縄観光を楽し

めるような仕組みがある。その他にも、球団名が入ったオリジナルかりゆしウェアや泡盛の販売、泡盛の試飲ブースなども設置されており、県産品のPRにも取り組んでいる（写真4）。

（写真3）宮崎キャンプ地の出店



（写真4）泡盛の試飲ブース



（出所）写真3はソフトバンク宮崎キャンプ、写真4は巨人那覇キャンプにて筆者撮影（2025年2月）

このような事業者や球団と連携して地場産業を盛り上げる取組みを強化し、より多くのファンを魅了するための施策を打ち出していくことは経済効果を高めるうえで必須である。

また、まずは観光消費額の多い県外客をメインターゲットとして誘客することが効果的だが、加えて県内客も来場したくなるような工夫を施すことも重要だと考える。それにより地元との一体感が増し、重要な観光コンテンツという位置づけのみならず、県内客にとっても一日中楽しめる総合イベントとしての定義づけが可能となろう。

### （3）交通問題の解消

経済効果の拡大に向けては、交通面の課題解決も重要である。沖縄県の攻略ガイドブックでは、公共交通機関やレンタカーを利用する場合のそれぞれの所要時間や最寄りバス停・駐車場などの情報を掲載し、各キャンプ地へのおすすめのアクセス方法をわかりやすく紹介している。また、一部の市町村では域内の周遊や1軍～2軍間の移動ができるシャトルバスの運行が実施されている。

一方で、各キャンプ地では駐車場の不足や球場からの距離が課題となっている他、近隣観光施設や宿泊施設等への動線確保も十分であるとは言い難い。

スポーツツーリズムのみならず、交通面の課題は沖縄観光全体において対策が急務であり、裏を返せば沖縄プロ野球春季キャンプで好事例を創出することができれば、沖縄観光における交通問題解消の糸口となるのではないかと考えられる。本件に関しては特に、キャンプ関係者のみならず、観光産業に携わる全員で向き合うことが望まれる（図表6）。

(図表 6) プロ野球春季キャンプの課題

プロ野球春季キャンプの経済効果拡大に向けた課題と施策案	
①設備強化	老朽化が進む球場施設の修繕や機能強化等、更なるレベル向上を図る
②消費行動の促進	観客の消費行動を促す仕掛けづくりで、県外客はもちろん県内客も楽しめる観光コンテンツとして進化させる 例) 地元飲食店や土産品店の出店促進、地域への周遊促進、地場産業のPR
③交通問題の解消	周遊を促す情報発信を強化するとともに、各キャンプ地や観光施設等のアクセス性向上について、観光産業の関係者全体で検討する

⇒県・自治体・地元事業者が連携し、キャンプ集積地としての付加価値向上を図ることが重要

(出所) りゅうぎん総合研究所

観光の閑散期に開催されるプロ野球春季キャンプは「観光消費額の平準化」に寄与する重要な観光コンテンツである。先述した課題に向き合い新たな施策を打ち出していくことは、プロ野球春季キャンプのイベントとしての魅力が向上するだけでなく、沖縄観光における新たな客層の獲得及びリピーター創出へとつながる。

また、温暖な気候を生かした「スポーツアイランド沖縄」の形成は沖縄観光発展の重要な位置づけを占めており、プロ野球春季キャンプはスポーツツーリズム推進の一翼を担う存在として、継続・進化していくことが期待される。それには県や自治体、地元事業者、そして地域住民を巻き込み、一体となって持続可能な受け入れ態勢を構築していくことが不可欠である。

各受入自治体の横連携、官民の連携強化によって、今後もキャンプ集積地としての付加価値向上を図り、県内のプロ野球春季キャンプが沖縄のスポーツ産業を牽引する観光コンテンツとしてさらに発展していくことに期待したい。

(りゅうぎん総合研究所 上席研究員 我謝 和紀)

【補注1】沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの実施状況(1979年～2008年)

暦年	日本ハム	広島	中日	DeNA	オリックス	ヤクルト	阪神	楽天	ロッテ	巨人	ソフトバンク	西武
1979	(投手陣) 名護市	◎						(○)				
80		◎						(○)				
81	(一軍) 名護市 ○									◎		
82		(一軍) 沖縄市	○									◎
83			(一軍) 石垣市							○		◎
84	(一軍) 名護市 (二軍) 宜野座村	◎			○							
85	(一軍のみ) 名護市		(投手陣) 具志川市				◎					○
86		○										◎
87			(一軍) 石川市 具志川市	(一軍) 宜野湾市						○		◎
88			○									◎
89			(一軍) 石川市 (二軍) 具志川市		(投手陣) 糸満市			(○)	(投手陣) 那覇市	◎		
90					(一軍) 糸満市					○	(一軍) 読谷村 (二軍) 嘉手納町	◎
91		○			(一軍) 糸満市 (二軍) 那覇市							◎
92						○						◎
93					(一、二軍) 平良市 糸満市	◎						○
94					(一、二軍) 平良市、糸満市、城辺町					◎		○
95					(一軍) 平良市 (二軍) 城辺町 ○	◎						
96	(一軍) 名護市 (二軍) 宜野座村		(一軍) 北谷町 (二軍) うるま市	(一軍) 宜野湾市 (二軍) 嘉手納町	◎					○		
97			(一軍) 石川市 (二軍) 読谷村			◎						○
98				◎								○
99			○								◎	
2000						(一軍) 浦添市				◎	○	
01						◎		(○)				
02										◎		○
03	(一軍) 名護市 (二軍) 東風平町						(一軍) 宜野座村 ○				◎	
04			(一、二軍) 北谷町 読谷村 ○		(一軍) 平良市 (二軍) 平良市 城辺町							◎
05			(一軍) 北谷町 (二軍) 読谷村 北谷町		(一軍のみ) 平良市		○	(一、二軍) 久米島町	◎			
06	(一軍) 名護市 (二軍) 八重瀬町 →国頭村 ◎		(一軍) 北谷町 (二軍) 読谷村 ○		(一軍のみ) 宮古島市							
07	(一軍) 名護市 (二軍) 国頭村 ○		◎							○		
08									(一軍のみ) 石垣市	○		◎ ○

【補注1】沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの実施状況(2009年～2025年)

暦年	日本ハム	広島	中日	DeNA	オリックス	ヤクルト	阪神	楽天	ロッテ	巨人	ソフトバンク	西武
9	○				(一、二軍) 宮古島市	(一軍) 浦添市 (二軍) 八重瀬町				◎ ○		
10			○						◎		○	
11			○							(一軍のみ) 那覇市	◎ ○	
12	○									◎ ○		
13						(一軍のみ) 浦添市		◎ ○		○		
14									(一、二軍) 石垣市	○	◎ ○	
15					(二軍のみ) 宮古島市	○					◎ ○	
16	◎ ○	○										
17		○									◎ ○	
18		○						(一軍) 久米島町 一金武町 (二軍) 久米島町		(一、三軍) 那覇市	◎	○
19										○	◎	○
20		(一、二軍) 沖縄市								(一軍のみ) 那覇市 ○	◎ ○	
21		(一軍のみ) 沖縄市			○	◎ ○		(一軍) 金武町 (二軍) うるま市				
22					○ ◎	○			(一軍) 石垣市 一金武町 (二軍) 石垣市			
23				(一軍のみ) 宜野湾市	○		(一軍) 宜野座村 (二軍) うるま市 ◎ ○	(一軍) 金武町 (二軍) 久米島町				
24				◎						○	○	
25									(一軍のみ) 石垣市 一金武町			
一軍 キャンプ地	名護市	宮崎県/ 沖縄市	北谷町	宜野湾市	宮崎県	浦添市	宜野座村	金武町	石垣市/ 糸満市	宮崎県/ 那覇市	宮崎県	宮崎県
二軍 キャンプ地	国頭村	宮崎県	読谷村	鹿児島県	宮崎県	宮崎県	うるま市	久米島町/ 宮崎県	宮崎県	宮崎県	宮崎県	高知県

(出 所) りゅうぎん総合研究所

(備 考) 1. 太線内のシャド一部分は沖縄県内で春季キャンプを実施。○はリーグ優勝、◎は日本シリーズ制覇。

2. 楽天の列の(○)は、05年からオリックスと合併した旧・近鉄のリーグ優勝。

3. 日ハム(1軍)の18年、19年の名護市キャンプは、新球場建築中のためサブグラウンドやブルペンでの練習となる。

4. 広島は、25年2月1日～11日まで宮崎キャンプ、13日～26日まで沖縄キャンプ。

5. ロッテ(1軍)は、25年2月1日～16日まで石垣キャンプ、18日～24日まで糸満キャンプ。

6. 巨人(1軍)は、25年2月1日～13日まで宮崎キャンプ、15日～25日まで那覇キャンプ。

【補注2】：本調査で使用した産業連関表について

本件調査では、沖縄県の平成 27 年産業連関表を用いた。産業部門数で表示する部門表は産業分類 35 部門表をベースにしたが、35 部門表ではキャンプにおける主な支出項目である「宿泊業」や「飲食サービス」、「貸自動車業」などの部門が明示されていない。そのため、これらの産業部門については、県が公表した基本分類表(458 行×367 列)から該当する業種を抽出した。さらに、今回の分析において統合しても不都合がない部門を当社で統合し、本件調査の分析用に組み替えた。

また、産業連関表における各産業部門の自給率は、県内需要(=県内居住者の需要)に対する自給率であるため、移輸出(=非居住者の需要)は対象外となる。このため、統計上移輸出である「県外からの滞在者の支出(=非居住者の需要)」の経済効果を試算する際にそのままの自給率を用いると不都合が生じる。例えば、宿泊業の自給率

は、県内居住者の宿泊需要（県外旅行などを含む）のうち県内宿泊部門を利用した割合を意味するが、県内居住者の場合、県外宿泊の支出額が県内宿泊の支出額より大きいため、県内宿泊業の自給率は低くなる。しかし、キャンプ関連の宿泊費や飲食費は全て県内で発生するため、こうした支出に対して県内での自給率が明らかに100%とみられる宿泊業、飲食店などについては自給率を100%に設定しなおして使用した。

経済波及効果を求める式は以下のとおりである。

$$\begin{aligned}\Delta X_1 &= [I - (I - \widehat{M})A]^{-1} (I - \widehat{M}) \Delta F \\ \Delta X_2 &= [I - (I - \widehat{M})A]^{-1} (I - \widehat{M}) c k w \Delta X_1 \\ \Delta X &= \Delta X_1 + \Delta X_2\end{aligned}$$

$\Delta X_1$  : 一次生産誘発額（直接効果＋一次間接効果）

$\Delta X_2$  : 二次生産誘発額（二次間接効果）

$\Delta X$  : 総生産誘発額（経済波及効果＝直接効果＋一次間接効果＋二次間接効果）

I : 単位行列

$\widehat{M}$  : 移輸入係数（対角行列）

A : 投入係数（行列）

$\Delta F$  : 最終需要増加額

c : 民間消費支出構成比

k : 消費転換係数

w : 雇用者所得率